

# け や き

## 人は人の中で人となる

大仙市教育委員会 教育長 三 浦 憲 一

新生大仙市は誕生してから5年目を迎えました。平成19年に、「新しい時代の学校教育だいせんビジョン」を作成し、教育目標に「生きて働く知恵を育み、創造力にあふれる人づくり」を掲げ、「共（ともに）」「創（つくる）」「考（かんがえる）」「開（ひらく）」をキーワードに、それぞれの地域の特色を生かしながら、大仙市立の学校として、共に歩んできていただきました。

児童・生徒の活躍はもちろんのこと、教職員の皆さん方やPTA、地域住民の努力の結晶と言ってもよいと思いますが、各県、各市から教育視察に訪れる教育風土を誇りにさえ思うところです。今年度も全国から20回、約190名（東京、神奈川、京都、兵庫、福岡、大分、宮城、愛知県犬山市等）の議員、教育委員、教育委員会指導主事、校長や教員等が来られました。また、韓国国立教育開発院の室長さんも訪問され、情報交換することができました。訪問を受け入れてくれた各学校や議会、教育委員会事務局にも感謝したいと思います。

ふり返った時、大仙にとって何よりの収穫は、お土産のお菓子ではなく、鋭い視線を浴びながらも、回数を重ねるごとに笑顔で堂々とあいさつや意見交換のできる児童・生徒の姿や、共通理解しながら常日頃の積み重ねを大切に授業づくりに取り組む教職員の姿を再確認できたことでした。

国策については、情報交換を通してどの県市も共通して実践しております。しかし、地域の特色を發揮するための実態に応じた重点施策は変わってきます。都市部では、住民の多様性や若手教職員増からくる一体感の醸成不足という一面も、公立学校に影響を与えているようです。また、地域的には同条件の県市では、学校の発信力や交流不足、支援や連携体制が整わないという課題を抱えているようです。今回の視察受け入れは、絶えず相手から学んで教えるという基本姿勢を再確認すると共に、自分たちを改めて見直すよい機会だと思っております。学校、市教委として、情報収集や現状分析、

点検を怠りなく、児童生徒の将来への自立に向けた支援という次への課題も忘れてはいけません。

国際的にも、家庭や学校、地域でも、「そこだけ」「それだけ」の世界では危険が伴います。「自分だけ」でも生きていけない時代です。それぞれのかかわり合いの中で自分をどう發揮していくかが大切です。各学校でも、組織をスリム化しプロジェクトチームをつくり、学力や体力も含めた「人間力」や、「かかわりあいと自立」をテーマにした学校が多く見られます。市のPTA 連合会や学校地域支援本部を通しながら、行政や地域住民、各種団体の専門家とも結びついており、積極的に連携を取ってくれております。さらに、環境問題に取り組む中学生サミットや小学生の挨拶運動なども地域に輪を広げつつあります。

よく「環境は変化するもの」と言われますが、大仙にはすばらしい自然環境があり、社会環境もよいものは継続して引き継ぎ、新しいものも積極的に受け入れております。教職員や保護者、地域住民も、お互いに持っている力を發揮し「活かし合う」という体制づくりを一層築きたいものです。そして、I（私）と共に、WE（私たち）という主語も多く使い、児童・生徒に還元できる、あたたかい学校や地域を目指したいものです。





# 外国語活動を通じて、コミュニケーションの素地を養う指導を求めて ～伝え合う楽しさ、分かりあえる喜びを求める児童の育成～

大仙市立横堀小学校 教頭 井上 久美子

## 1. はじめに

本校の児童は、活動意欲にあふれる、明るく素直な子ども達です。本校はここ数年、学び合いにスポットを当てた研究を進めてきました。その結果、自分の考えを相手に伝えようという意欲が高まってきましたが、学年が上がるに従って、自分の言葉で表現することに消極的になってしまうといった傾向が見られました。そこで、外国語活動で英語を話したり聞いたりする体験を通じて、より積極的なコミュニケーションの素地を身に付けさせたいと考え、実践を積んできました。

## 2. 実践の概要について

### 【外国語活動の研究主題】

「伝え合う楽しさ、分かりあえる喜びを求める児童の育成」

### 【めざす児童像】

- ・外国の言葉や文化について体験的に理解する子ども
- ・進んでコミュニケーションを図ろうとする子ども
- ・英語の音声や基本的な表現に慣れ親しみ、興味・関心をもつ子ども

### 【研究の仮説】

- ・いろいろな国の人との関わりを大切に、楽しい学習の場を設定することによって、進んでコミュニケーションを図ろうとする子どもが育つのではないか。
- ・簡単な英語でコミュニケーションを楽しむことによって、主体的に外国語活動に取り組み、外国の言語や文化に興味関心をもつ子どもが育つのではないか。

### 【研究の重点】

- ・効果的な教材の活用や指導方法の工夫
- ・評価方法の工夫
- ・ALTやCIRなど、外部人材の効果的な活用

## 3. 実践

### 効果的な教材の活用や指導方法の工夫

#### ○英語ノートの活用（まずは使ってみよう）

英語ノートの教材の絵カードは種類が豊富です。手作り教材はもちろんいいのですが、十分に考えられている資料を使うことで、児童の興味関心が増し、言語や文化についての気づきも見られました。

#### ○学習過程の工夫

- ・あいさつ
- ・今日の活動の流れとめあての確認
- ・[Let's Sing] や [Let's Chant]
- ・[Let's Listen] 聞き取り、デモンストレーション
- ・[Let's Play] ゲームで言語教材に慣れる
- ・[Activity] コミュニケーション活動
- ・ふりかえり

#### ○3つの約束

- ・Smile / Eye Contact / Big Voice

### 評価方法の工夫

#### ○評価の観点

- ・コミュニケーションへの関心・意欲・態度
- ・外国語の音声や基本的な表現への慣れ親しみ
- ・言語、文化についての理解

#### ○評価方法

- ・「のりのり曲線」による評価
- ・行動観察による評価
- ・児童の自己評価と相互評価
- ・英語ノートの記述 など

### ALTやCIRなど、外部人材の効果的な活用

#### ○授業での活用

- ・生の英語を聞いたり、外国の方と関わることで、英語でコミュニケーションを図ろうとする意欲を高めることができました。

#### ○学校行事での活用

- ・田植え、稲刈り、感謝祭、集会等で外国の方々と接することで、自然なコミュニケーションを図ることができました。

#### ○研修での活用

- ・全職員による指導力向上のための研修と英語運用能力を目指し、CIRの先生や地域の講師を招いて研修しました。

## 4. 成果と課題

#### ○成果

- ・ゲームやクイズなど楽しい活動を取り入れた学習を展開することで、外国語活動に慣れ親しみ、進んでコミュニケーションを図る姿が見られるようになりました。
- ・友だちと十分なコミュニケーションができる時間や場を設定することで、互いに教え合ったり、笑顔で関わり合う姿が見られました。このことは、よりよい学級づくりにつながっています。

#### ○課題

- ・英語ノートをもとにして単元計画を構想していますが、児童の実態に合わせた活動内容を更に工夫する必要があると感じています。





# 自然と子どもの心を 未来につなぐ環境教育

大仙市立大曲南中学校 教諭 島田 智

文部科学省から「新しい環境教育の在り方に関する調査研究事業」と「ユネスコ・スクール」、経済産業省から「エネルギー教育実践トライアル校」の指定を受け、総合的な学習の時間と各教科等との連携を図った体系的な環境教育の実践に、「エネルギー」の視点から取り組んできました。

## 実践

- 「教育活動全般で」「連携」「発信」「行動化」をキーワードに取り組んできました。
- (1) 総合的な学習の時間を核として、各教科で取り組む環境教育を進めるため、環境教育カリキュラムデザインを作成しました。生徒にはそれを環境教育カレンダーとして提示し、見直しをもった学習を進めました。
  - (2) NPO法人、企業、大学、研究機関と連携をしながら、「本物にふれる」ことを重視して実践しました。特に秋田県地球温暖化防止活動推進センターからは多くの支援を受け、センターが主催する「環太平洋自然エネルギー国際フォーラム」にも3年生が参加しました。また、たくさんの講演会、出前授業等を行い、本物と最先端の科学技術を体験することができました。
  - (3) 環境教育通信「ESDom」を30号発行し、本校の取り組みを保護者に発信しました。また、新聞やテレビの取材を積極的に受け、地域にも発信しました。1月には「オープンスクール ～小・中連携環境デー～」を開催し、本校の実践を公開しました。
  - (4) 生徒会の取り組みとして、大仙市環境家族宣言・ワンデーエコチャレンジへの全員参加、おらほのCO<sub>2</sub>ダイエット作戦、小・中合同クリーンアップ等で、学習したことを実生活の中で行動化しました。

## 研究の成果

環境に対する意識の向上はもとより、行動するための実践力も身につけてきました。実践力は活用力につながります。特に思考、表現の能力向上が見られました。オープンスクールでの小学生を対象にした実験講座では、生徒の思考の深さと、高い表現力が評価されました。

環境教育を本校の特色として発信することで、地域とのつながりが一層深いものになりました。太陽光発電を利用した緑のカーテン&イルミネーションは、本校のエコシンボルとして地域のみならず、注目を浴びています。エネルギー教育賞最優秀賞受賞も、地域等との連携が高く評価されての受賞でした。



# 環境にひたり、考え、行動できる 生徒の育成を目指して

大仙市立大曲中学校 教諭 小原 衿子

本校では、「豊かな自然にひたり、資源の大切さを考え、行動できる生徒」を目指し、生徒会活動を中心に全教育活動を通じて環境にかかわる取り組みを続けてきた。

## 実践の概要

### 1. 生徒会活動の実践

日常生活における思いやりのある行動を目指し「曲中しぐさ」を実践しており、特に環境にやさしい行動を「REVOしぐさ」と命名するとともにシンボルマークを制作して、「節水」「節電」「紙の節約」などの呼びかけを行っている。また、従来から福祉活動として行ってきたアルミ缶・プルタブ回収（益金で地元福祉施設に車椅子等を寄贈）、ペットボトルキャップ回収（177人分のワクチン代に相当）は、家庭や地域との絆を深めるとともに、環境についての意識を高める意味からも大きな成果をあげている。こうした活動については、学校祭では環境展を開催するなどして地域に発信するとともに、環境教育の面での意識や意欲の向上に寄与している。

### 2. 各教科、総合的な学習の時間等の実践

年度当初に、各教科でエネルギー・環境教育とかかわりの深い単元を確認した。特に、理科、社会科、道徳については、環境教育を共通テーマとして、指導主事を招いて校内研究会を実施し、全教職員で研修を深めた。

また、全学年の総合的な学習の時間で、環境をテーマにした学習に取り組んだ。施設訪問やゲストティーチャーを招いての講演会など体験活動の充実を図り、学習の成果は学校祭等で広く地域に発信した。

### 3. 家庭・地域と連携を図った実践

例年参加している大仙市主催の雄物川クリーンアップに加え、大仙市環境課主催の大仙市環境家族宣言に全校生徒が参加した。技術・家庭科の単元「消費生活と環境」と関連を図り、各家庭の協力を得ながら二酸化炭素削減に取り組んだ。

## 成果と課題

環境学習から得た確かな知識・理解に基づいて考え行動する態度が生徒に身に付いてきた。また、生徒のみならず、環境に対する家庭や地域の関心の高まりも実感している。今後は、一部の教科が中心であった取り組みを他の教育活動にも広げるとともに、生徒たちの活動の成果がはっきりと見える工夫をしていく必要がある。





## 学校視察を本校の学びに生かす

大仙市立大曲小学校 教諭 菅原 潔

今年度、県外、国外からたくさんの学校視察、学校取材を受けました。これらから得たものは何なのかを、まとめてみました。

### 1. 本校の構え

学校行事等の状況にもよりますが、原則拒まないのが本校のスタンスです。事前の準備等てたいへんなこともありますが、これを機会として得られるものも多いと考えます。

### 2. 視察の場の提供

#### (1) ありのままを見せる

視察があるからと特段に飾るようなことはありません。授業においては、普段行っていることをそのままに見てもらいます。視察の日程には、経営説明などは入れますが、子どもを見てもらうことが一番だと考えています。



#### (2) 年間を通した取り組みを見せる

今年度は、国や県の事業を活用して、地域や高等教育機関の人材や教材を生かした取り組みを展開しています。これらは年間を通した活動ですから、視察に合わせて見てもらうこともあります。

### 3. 視察から学んだこと

#### (1) 協議を通して

各県によって教育行政の仕組みや学校の組織、取り巻く環境が思った以上に違うことがわかります。当たり前と思っていた活動が、注目に値することであったなど、意外な情報をたくさん提供してくれます。

#### (2) 自信がついてくる

自分たちの歩みが間違いのないものであることを強く感じる事が少なくありません。本校が進めている、子どもを中心に据えた取り組みに自信をもてるようになります。

#### (3) プレゼンの大切さ

いかに本校を知ってもらうか、これが視察を受ける側の大きな使命です。限られた時間の中で、どれだけ情報を届けられるかを考えたとき、プレゼンの大切さを痛感します。

### 4. 今後に向けて

視察に対する本校の構えは、今後も継続されます。開かれた学校は向上心をもった学びの場です。そこへはたくさんの温かい支援の手が差しのべられます。その支援の中で子どもたちは生き生きと伸びていきます。

## 「かかわり合う力の育成」を切り口として特別活動における道徳性の向上を目指して

大仙市立花館小学校 教頭 厨川 学

### 【研究主題】

『つながる喜びを感じ しなやかな心で  
主体的に実践できる子どもを目指して』

→「よりよい人間関係」と「自主自律」をキーワードに特別活動における実践活動や体験活動を充実させ、道徳的実践の場における児童の主体的な活動を支援することにより、しなやかな心（優しく強く豊かな心）がはぐくまれ、道徳性豊かな児童が育つであろうと考えました。

### 【研究の重点】

#### ① 望ましい集団活動を通した道徳性の育成

##### ア 学級活動の充実

- ・児童が自分らしさを発揮しながら、楽しく活動できる学級・学校の生活づくりを通して「かかわりあう力」を育成すること。
- ・よりよい人間関係に支えられた話し合い活動の活性化と、自発的・自治的な活動の充実により自主的・実践的な態度を養うこと。

##### イ 日常的な取り組みの充実

- ・朝の会、帰りの会、清掃活動などの毎日行われる教育活動について、育てたい道徳性を明確にしながら共通実践していくこと。
- ・自分の思いを表現し合う力を向上させるため、全ての教育活動において言語活動の充実を図ること。

#### ② 豊かな体験活動を通した道徳性の育成

- ・音楽活動や全校縦割り班活動、児童集会、読書活動の充実を図ること。
- ・多様な人々との交流活動を充実させ、感性豊かな心の育成を図ること。
- ・家庭や地域と連携した活動を充実させること。

### 【研究の成果】

- ① 道徳の重点指導事項を日常的に意識しながら学習や活動の指導に当たることによって、「よりよい人間関係」や「自主自律」にかかわる児童の意識、実践の姿に変容が見られてきました。
- ② 学級目標への意識を高めることにより、「自分もよくてみんなもよい」を意識し、他や集団を大切にしがらぼうとする仲間意識が高まってきました。
- ③ 学級活動の中で、道徳的価値を意識した活動前の意欲付けや活動後の振り返りを行ったことが、自分や他のよさに目を向けることにつながり、安心して自分の力を発揮しようとする子どもが増えてきました。また、「真面目に取り組む」「一生懸命がんばる」ことの価値が再認識され、子ども同士が高め合う姿も見られるようになってきました。



## みんなで創るドリームミュージカル ～地域の誇り・宝物・支えとして夢奏で～

大仙市立大川西根小学校 教頭 齊藤 聖士

### 1. 全校音楽が母体のミュージカル

今年で50年目となる全校音楽から生まれた全校ミュージカルも、始めてから19年目。曲は子どもたちが作詞・作曲し、自分たちで演じ奏でている。

### 2. 大きな支えと協力で創り上げる

最近、演じ手として保護者も多数参加し、全校ミュージカルを楽しみながら盛り上げてくれている。また、黒子役として照明や道具係等の協力もあり、保護者や地域の方々を含め、みんなで創り上げるものになっている。

### 3. 特色ある学校経営

今や、全校ミュージカルは全校音楽とともに本校に定着し、地域全戸に呼びかける後援会組織もあり、本校の特色ある学校経営の基盤となっている。



## 地域の中で育まれる子どもたち ～出会い・創造・感動・感謝～のサイクルで

大仙市立太田北小学校 教頭 進藤 正弘

本校は、三年にわたり、全校音楽劇の創作・上演に取り組んできました。一年目、二年目は「葉っぱのフレディ」、三年目の今年度は「スイミー」。いずれも、絵本をもとに、太田北小バージョンに脚色しての上演です。保護者・地域・専門家を巻き込んだ舞台の創出は、学校のみならず、地域に大きな感動を与えています。絵本と「出会い」、専門家の方々の指導を受け、音楽劇を「創り」出し、多くのお客様と「感動」を共有し、音楽劇を通して成長した自分と、それを成し遂げるために、その夢をいっしょに追って下さった、たくさんの方々への「感謝」の心をもつ。出会いー創造ー感動ー感謝ーそしてまた新しい出会いへと続くこのサイクルによって、子どもは大きく成長するのだと気づかされています。いろいろな場面での地域の方々のご協力や励ましから、学校の枠を越えた取り組みは、学校と地域の一体感をつくる力があることを実感させられています。



## 発信！刈和野大綱引き

大仙市立刈和野小学校 教頭 富樫 弥恵子

### ① ぐみ編みと綱合わせ体験（3年）

大綱の元になるぐみ編みや本物の1/10サイズのミニ綱で綱合わせを体験し、韓国交流団の前で演示した。

### ② ポスター・新聞や放送番組作り（4、5年）

ポスターや手作り新聞を公共施設や商業施設で掲示・配布。NHKの放送体験を活用し、綱引きに関わる番組を制作した。

### ③ エア綱引きで交流（6年）

国際教養大学や秋田駅「ぼほろーど」で「エア大綱引き」演技を行い、留学生や観光客に綱引きの面白さをアピール。



他にも神事の見学や綱よいへの参加など、地域の人々とふれあう活動を行った。更にその思い出を短歌や川柳にして地域に発信。大綱引きをきっかけにした地域と学校との関わりは双方の活力に繋がっている。

## 大仙市中学生サミット

## がんばっています!「REVOプロジェクト」

大仙市教育研究所

「Recycle (リサイクル)」「Eco (エコ)」「Volunteer (ボランティア)」に関連した活動を通して、地域との絆を深めようと、平成20年度からスタートした「REVO (レボ) プロジェクト」。今年度は、家庭や地域の協力を得ながら、全中学校がリサイクルを意識した回収活動を展開し、その収益金で地域の福祉施設へ車椅子などを寄贈しました。その他にも、地域のクリーンアップや除雪ボランティア、一人暮らしのお年寄りへのお弁当づくりなど、中学生の視点から、さまざまな地域貢献に取り組んでいます。





## 各PTAの連携を目指して

大仙市PTA連合会 会長 齋藤 靖

大仙市のPTA連合会も発足して2年目を迎え、今年からは保育園にも参加いただきました。そして今年は全市とのつながり、幼稚園から中学校までのつながりなどを考え、活動元年と位置づけ、次のような活動をして参りました。

- 1) 全市一斉のあいさつ運動の実施（6月）
- 2) 中学校サミットへの参加（8月）
- 3) 橋本五郎氏による講演会の実施（11月）
- 4) 統合小学校（協和小学校）視察（12月）
- 5) 各校会長による研修会（2月）

子ども達を取り巻く環境は日々変化しております。子どもの安全の問題、給食費未納に代表される親の考え方の問題、今後進むであろう学校統合について、また、ふるさと教育についてなど、連合会で取り組むべき課題はたくさんあると考えられます。これらの課題を各学校だけではなく連合会として連携を取りながら、今後も取り組んでいきたいと考えます。

## 豊かな体験活動（八乙女学習編）

大仙市立中仙小学校 教頭 今野 敏行

本校は、今年度「豊かな体験活動推進校」として5年生を中心に次の活動を展開した。

- 1 ふるさと八乙女学習
- 2 田沢湖自然まるごと体験学習
- 3 農山村まるごと民泊学習

### 1. 八乙女学習活動の内容

- ・八乙女山の自然観察、歴史学習
- ・八乙女山周辺での林業体験  
（間伐・枝打ち体験、桜苗木の植樹）
- ・八乙女山でのオブジェ制作活動
- ・森林環境学習（講演）

### 2. 地域の支援

「八乙女山を守る会」「中仙技能組合」「森林組合」等の地域の団体から延べ30人以上の協力をいただき、子どもたちは地域の先生から、たくさんのお話を学び、地域に密着した学習を展開することができた。



## 亀田街道祭り

大仙市立大沢郷小学校 教頭 佐々木 悟



大沢郷地区には、江戸時代を偲ばせる亀田街道があり、杉並木の残る細道が続いている。これは、亀田藩の殿様が参勤交代で江戸入りする時や帰藩する時に通った道であるらしい。

亀田街道祭りは、宿地区の人たちが中心になって保存会を結成し実施している伝統行事だ。

昔の衣装に身を包み、往時を偲びながら杉並木を歩くのだが、本校児童も浴衣や半纏にわらじという服装でその行列に参加している。

街道の入り口に着くと、それまでまぶしかった夏の日差しは遮られ、薄暗い杉並木の中は、ひんやりとしてとても気持ちがいい。慣れないわらじを履いた児童は、足の痛さを訴えたり、わらじから伝わる土の感触を教えてくれたり、いろいろな声が街道にこだまし、にぎやかな催しになった。

地域に残る遺産や文化を知ること、ふるさとを大切にしようとする心が育つ、そんな一時だと感じた。

## 図書室を学校の核として

大仙市立東大曲小学校 校長 加賀谷 和 宏

本校には、吹き抜けの広い図書室が校舎の中央にあります。今年度、保護者21名の手伝いをいただき大改装を行いました。

### （図書室での主な活動）

- ① 読み聞かせボランティアが月に2回、読書タイムに読み聞かせを行っている。
- ② 図書室ボランティアが、毎週図書室の整備や子ども達のための「絵本作り」を行っている。
- ③ 子ども達や地域の方の得意な事を発表する場として、「とびつきりステージ」を月に2回行っている。
- ④ 長期休業中は学習会が行われ、30人以上の子ども達が参加した。地域の先生から教えていただく「学びい」も始まる。





## 南小ダッシュ村体験

大仙市立太田南小学校 教頭 高橋 秀一

本校では、テレビ番組「鉄腕ダッシュ」をヒントに、「南小ダッシュ村」構想を練り、子ども達の体験活動の充実に努めてきた。

### 1. 「大台山全校登山」

- ・保護者や地域ボランティアの協力を得て、低・中・高の3コースを設定、全児童がゴールに到達した。
- ・自然に触れるとともに、美しい散居集落の景観を一望し、ふるさとを見直す活動となった。達成感の感得、助け合いや思いやりの心の醸成に大きな収穫があった。

### 2. 「大根栽培と柿漬け」

- ・地域の方々の教えを受けながら、大根を栽培し、「柿漬け」を作って全校で試食した。
- ・「柿漬け」の実体験を通して、先人の生活の知恵や技術を知り、地域の食文化を理解した。異世代間の縦糸を紡ぐ豊かな体験活動となった。



## 豊かな体験活動「本物に触れる」

大仙市立太田東小学校 教頭 伊藤 政和

本校は今年度「豊かな体験活動推進校」に指定され、「本物に触れる」を合い言葉にいろいろな体験学習を実施してきました。そのうちの二つを紹介します。

### ① 「ようこそ 豪風さん」

郷土の現役幕内力士を迎えての集会を実施し、その後土俵で子どもたちが関取の胸に喜んで体当たりしました。そのときの子どもたちの感動は絵や作文に生き生きと表現されました。



### ② 「白神体験 山へ 海へ」

日本海と白神の山々での活動は本当にダイナミックで心に残る出来事でした。6年生は民泊も体験し、地元の人たちと心の通う交流もありました。



以上のような体験活動等を通じて子どもたちは「本物のすばらしさ」に触れ、自然と遊ぶたくましい心を育成したり、望ましい人間関係を築いたりする機会にも恵まれました。

## 豊かなかかわりを通して夢を育てる

大仙市立高梨小学校 校長 須田 綾子

第50次日本南極地域観測隊に隊員として参加している小森智秀さん（気象庁勤務・茨城県在住）と以前から交流していたことがきっかけで、南極昭和基地と衛星回線で結んだリアルタイムによる交信が実現。南極は不思議がいっぱいである。夏は、白夜といって太陽が沈まず、逆に冬は太陽の昇らない日が続く。南極だけの気象現象だ。オーロラの写真が画面に大きく映し出されたときは、その神秘さに心が震えた。南極大陸の水には72万年分の地球の空気が眠っているらしい。南極から届けられた水を実際に手にした子どもたちは大はしゃぎ。この日、子どもたちの目がいつにも増して輝いていたことは言うまでもない。



このような取り組みが、知的好奇心に働きかけ、かかわることによって得た感動体験は、将来を見通した自分の生き方を考えたり、学びの尊さに気付いたり、学ぶ意欲につながったりするのではないかという期待をもっている。

## 世界でたった1枚の皿

大仙市立南外幼稚園 副園長 藤嶋 寿美子

### 1. 橇岡焼きに挑戦

開園以来実施している祖父母との交流行事に、9月の橇岡焼き体験があります。これは、南外の伝統工芸に触れる貴重な機会でもあります。窯元さんから説明を受けた後、祖父母と園児と一緒に皿作りを始めるのですが、園児の目は真剣そのものです。約1ヶ月後の出来上がりが楽しみでもあり、ちょっぴり心配なところでもあります。



### 2. 2つのパーティー

できあがった皿のお披露目が、10月の「いもいもパーティー」です。園児と祖父母で作ったあつあつの「大学芋」、「焼き芋」、そして黄金色の「きんとん」が盛られます。

1月の「もちもちパーティー」では、みんなでついた餅で作った「大福餅、きなこ餅」が皿に盛られます。どちらもみんなでいただきます。その後、皿はそれぞれの宝箱に入ったり、家庭内に飾られたりし、大切な思い出の品になります。



## 小中連携を通して

大仙市立双葉小学校 教諭 齋藤重隆

今年度西仙北西地区では、小中連携の在り方について校長会、教務部会、研究主任部会、生徒指導部会等で研究してきました。以下、今年度取り組んだ事例を2つ紹介いたします。

### 1. 外国語活動

西中の飛澤先生には、5・6年の外国語活動年間35時間のうち、約50%の割合で協力をいただきました。ALTの先生への通訳係も含め、事前の打合せから実際の授業まで、きめ細かな支援により効果的な授業を行うことが出来ました。



6年英語授業

### 2. 一日学習会

「中1ギャップ」を埋めるための具体策として、中学校での一日の生活の流れを体験する機会を11月に設けました。授業参観、中学校の先生による授業体験の他、清掃や体力作りの様子を見学しました。



西中での理科授業

## 読書は、心のオアシス

大仙市立土川小学校 教頭 後藤義隆

本校の図書館経営について紹介をします。

- ① 今年度は3回のお話を実施しました。外部団体に要請をしたエブロンシアターやお話のコンサートの他、子どもたちの読書集会でもブラックライトショーが行われるなど、形態は様々でした。
- ② ボランティアによる読み聞かせ  
読み聞かせボランティア7名の方が、ほぼ毎日のようにどこかの学級に入っています。毎朝自主的に朝の活動が始まっているのが見られます。
- ③ 図書ボランティアによる活動  
保護者に募集し、今年度は5名の方が名乗りをあげてくれました。新刊書の受け入れ、台帳への記帳、破損箇所の修理、廃棄等々、ご難儀をおかけしています。



## 平成21年度 教育研究所のあゆみ

### 1. 大仙市教職員研究集会

- ①第1回大仙市教職員研究集会（平成21年4月22日）
  - ・平成21年度教育委員会関係職員を紹介した。
  - ・教育長講話
  - ・各代表校による「特色ある取り組み」の実践事例を発表した。
- ②第2回大仙市教職員研究集会（平成21年8月6日）
  - ・職務別研修会（午前）
    - \* 市校長会（各部会毎の研修）
    - \* 研究主任研修会（新教育課程の研修）
    - \* 生徒指導研修会（誹謗メール等対策研修（含む：スクールガード養成講座））
    - \* 安全な舞台づくり講座（講師：大仙市民会館職員 羽根川 和雄氏）
  - ・全体会（午後）
    - \* 教育長講話
    - \* 学力向上推進委員による国語、算数・数学、英語、理科、社会科の実践発表を行った。

### 2. 学校訪問（年間2回実施）

- ①前期訪問では、「全体会」を実施し、市の教育方針を共通理解する場を設定した。
- ②後期訪問では、「学力向上への取り組み」や「不登校やいじめ」について、状況を把握し、成果と課題、改善の手立てなどを確認し合った。

### 3. 学力向上

- 全国や県の学習状況調査分析結果を提供した。
- 学力向上推進委員会が改善に向けた手立てとして、全国や県の学習状況調査分析結果に基づいたフォローアップシートを作成し、各校に提供した。
- 学力向上推進委員が各教科の実践事例を第2回大仙市教職員研究集会で発表した。

発行 大仙市教育研究所

〒014-0053 秋田県大仙市大曲花園町4-88  
TEL 0187-63-9400 FAX 0187-63-9401  
E-mail om-kyouken@edu.city.daisen.akita.jp

## 大仙市立中学校生徒海外派遣事業

### ～ 子どもたちを変えるもの ～

大仙市教育研究所



今年度は市内7中学校から20名の中学2年生が参加し、オーストラリア「ケアンズ」の大自然の中で研修をして来ました。

世界自然遺産に登録されている熱帯雨林の中に宿泊、オーギーキッズと野外活動を楽しんだり、5家庭に分かれて3泊4日のファームステイを体験したり、自然や人との触れ合いを満喫した9日間でした。日が経つにつれ、生徒達が「自信」「自立」「たくましさ」「チャレンジ」といった言葉が連想されるような表情や行動をするようになっていくのが印象的でした。

参加した生徒達がこれからの学校生活の中で、今回の研修の成果を自分のためにはもちろんですが、周りの人達のためにも大いに生かしていってくれることを願っています。